

も血清稀釋倍數3倍以上に於て之を證明せるもの13名なりき。喰菌作用と凝集反應との關係をみるに注射後抗體の増加せるものに於ては一般に喰菌作用の昂進せるを認めたり。喰菌作用は使用菌種に依りて異り、 $T_{1/2}$ 菌を用ひたる場合に於てはH. 901菌を用ひたる場合に比し、注射前も注射後も喰菌され難きもVi抗體を證明せるものに於ては喰菌力の昂進せるを認めたり。

追 加

平 野 憲 正

従來の腸チフスワクチンの注射によつてはVi抗體の產生がない。併しリンゲルワクチンはVi抗原を有つて居るので本抗體が產生される。人體に於けるVi抗體が腸チフス菌の感染防禦に如何なる役割を演ずるかは不明であるが、腸チフスの恢復期には必ずVi抗體が證明されることから考察し、本抗體產生はワクチンの効果を判定する上に於て相當意味があるだらうと思ふ。

12. 細菌鞭毛の實驗學的研究 (一新鍍銀法に依る)

藤田生物組織研究所

市 川 民 慈 子

細菌學の領域に於て鞭毛の檢出法が至難の業に屬する事は斯道に携はる者の等しく嘆ずる所なり。由來細菌鞭毛の檢出法に2途あり。1は色素を以つて染色し他は銀に依りて檢出するにあり。前者はKoch以來Löfflerにその源を發し後者はZettnow一派の手法に倣ふ。兩者を比較するに色素法は到底鍍銀法を凌駕するの力なく後者の判然たる黒色の銀効果は先づもつて鞭毛檢出の王座を占むるに似たり。然れども惜むらくはMediümの汚染(Mittfärben)する事にあり。もし之のStörendebildたる銀の表面沈着を除く事を得ば將に鍍銀法の最大効果を發揮するものといふべし。演者は當研究所に於て細菌鞭毛の鍍銀法に手を染むる事久し。此處に當研究所獨特の一新鍍銀法を公表しひいては細菌鞭毛の實驗學的成績を發表せんとす。抑々此の一新鍍銀法なるものは去年(昭和16年第8回東京女醫學會總會)の本學會に於て發表せし血球鍍銀法の根本原理と其の軌を一つにせるものにして従來組織學者(又は細菌學者)の慣用せる硝酸銀の單純水樣液に代ふるに、ゲラチンを加味せる膠質銀液を使用するにあり。特に細菌鞭毛の檢出に當りては該細菌の培養時期或ひは釣菌手技特に媒染液の効果等に重點を置き稀薄タンニン液中に生菌を落し、媒染液としてはZettnow氏一派のタンニン酸吐酒石液を用ひ純酒精通過法或ひは、アンモニヤゲラチン銀の前處置、ゲラチン銀、ゲラチンヒドロヒノン液の後處置、ひいてはカメレオン液を以てする減力法等に依り確實鮮明なる鞭毛鍍銀法の完成をみるを得たり。演者は百尺桿頭一步を進め細菌鞭毛の實驗的研究に分野を進め生菌鞭毛に及ぼす各種の實驗學的要約の効果に就きて本研究を行ひしものなり。之が生物學的論據の詳述は他日を期し、今回は實驗標本を供覽し以て同好の士の御高評を乞はんとするものなり。

13. 犬十二指腸蟲卵と犬糞便内好氣性菌の各種藥品に對する抵抗力の比較

東京女子醫學專門學校寄生蟲學教室

中 村 絹 子

十二指腸蟲の生物學的方面に就きての研究は、無菌的に培養せられたる蟲體に就きて行はるべきなり。然る

に未だ其實験報告を見ず。

故に私は、一定の犬十二指腸蟲卵を排出する犬三頭よりグリセリン浣腸により採便し、アンチフォルミン、ホルマリン、鹽酸、昇汞、マーキエロクローム、ハロミン等各種消毒薬を種々なる稀釋度に於て作用させ水道水にて五回洗滌後、蟲卵の無菌的蒐集及び其無菌的培養を試みたり。細菌検査には家兎血液寒天培養基を用ひ十二指腸蟲はカワラケ培養を行へり。今日迄の成績以下の如し。

アンチフォルミンに就て

全く無菌的となし蟲卵を孵化脱殻せしめ得たるものは、30%及50%を1~2.5時間倍量作用の場合最高にして、同量作用にては完全に消毒をなし得ず。仔蟲發育は試験稀釋度の濃厚なる程強く阻止さるゝものの如しアンチフォルミン作用後0.5%カルボール混和のものは仔蟲全く陰性にしてカルボールの爲め特に細菌陰性とはなり難し。

ホルマリンに就て

30%及40%1~2時間作用のものは同量、倍量共に無菌例多く、孵化仔蟲は水中には極めて稀にして、多くはカワラケ上に認めたり。

鹽酸に就て

10%30分~1時間にて無菌的とならず、仔蟲よく發育す。20%1.5~2時間、30%~60%30分各々倍量作用のものに無菌例多く、孵化仔蟲はカワラケ上のみに見らる。糞便上清液混和のものにては、何れの場合に於ても本試験より發育良好なり。

昇汞に就ては、現在實驗續行中なるも20分、40分、1時間、各時間共0.05%より0.1%に、又同量より倍量作用の場合に無菌例多きも卵發育し難し。

マーキエロクロームは3%1.5, 2, 2.5時間にて各々無菌的とならず、蟲卵着色す。

ハロミンに就ては、1%1.5時間にて無菌とならず、仔蟲よく發育し、10%1.5, 2時間作用にては仔蟲檢鏡時菌陽性となり、仔蟲はカワラケ上のみに認めらる。

14. 實驗的空氣栓塞死及失血死經過中に於ける眼底所見、 並に死後眼底所見

東京女子醫學專門學校法醫學教室

吉 成 京 子

白色家兎を用ひ、實驗的空氣栓塞死經過中に於ける眼底、及び頸動脈切斷による失血死の際の眼底を倒像にて檢したるに、兩者は甚だ類似せる所見であつた。即ち失血死の場合は眼底は急激に起る貧血の所見であるが空氣栓塞の場合に於ても殆んど同様な所見を呈し、之を前年本學會に於て報告せる窒息時眼底所見と比較する時は窒息時に見られた眼底全血管の暗赤色となる所見は、失血死、空氣栓塞死に於ては共に生存時には認められず、又網膜中心動靜脈の態度も、後二者と前者とは異なるところであつた。然し死後引續き之等を觀察する時は三者共殆んど同様な所見を呈する如きであつた。